

佛諧
水滸
宇和持奇人集
前編
上

中村俊定文庫
文庫 18
1035
1



阮げん小せう五ごのを依よけく水みづ以も階かふまふと口くちのまでい花はな和わ尚しやうか
 尾おと奴みきくるまさらり形かたち肥こ擔たん桶ぶく一いち落おつるぞかの史とままま表へ
 少すくとしき閑けん活かつ休きゆう題だいおはれ小流りゅうの流行りゅうふりくさき作の通りの
 興きようと青木き、青林りん真まがま人にん丹たん浮う鳴めい一いち歌か歌かとひ式しきを面看けん居い
 題だいすの被か意い係けいの数子しあらひ百への語ごあらはり手て是を誦じゆ誦じゆ
 有あり一儘ままの子書しよこわらまがま事こともまらぬ愁しゆ乃の作さくを物終しゆうめの
 いさらう優ゆうり腹もこぞ悲くなく睡魔まと掛ふ徳をらんら

水みづの醉あり酒の世あらはるくまらり若わかびのふらふ一辭ことの報に
 通とほる座真ま心しん持もち大だい鼓この字あらはる人にん傳でんを口き作者しや若わか若わか
 其その大だい鼓この音あらはると笑つとまらが初の花の道あらはる山さん口くち
 中なかの松の木あらはる刻ときあらはる人にんのみ講かうを講の終あらはると
 一いち編へん入につま意い水みづあらはる一いち

天保丁酉孟陽

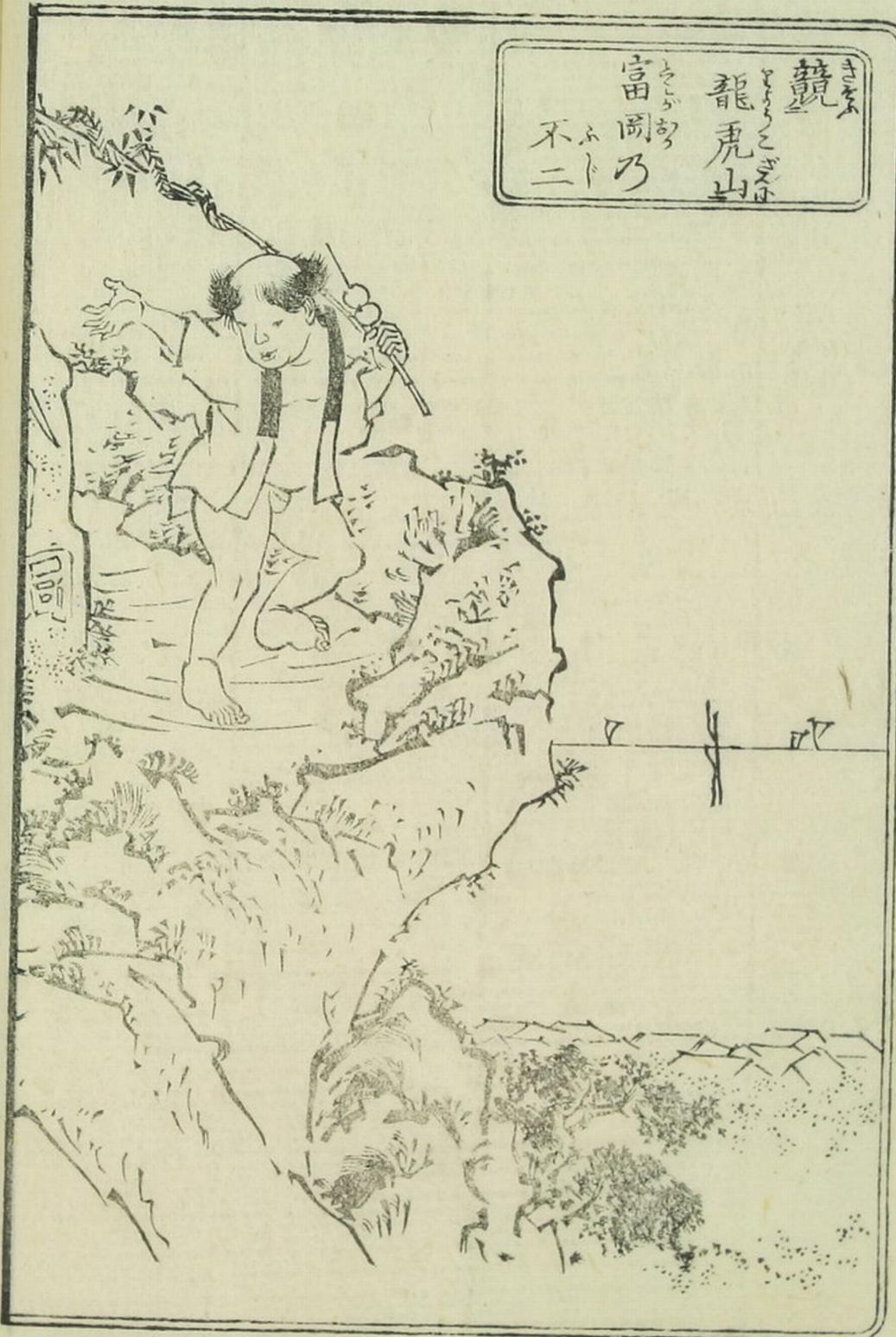
浅州閑人

柳亭種彦記

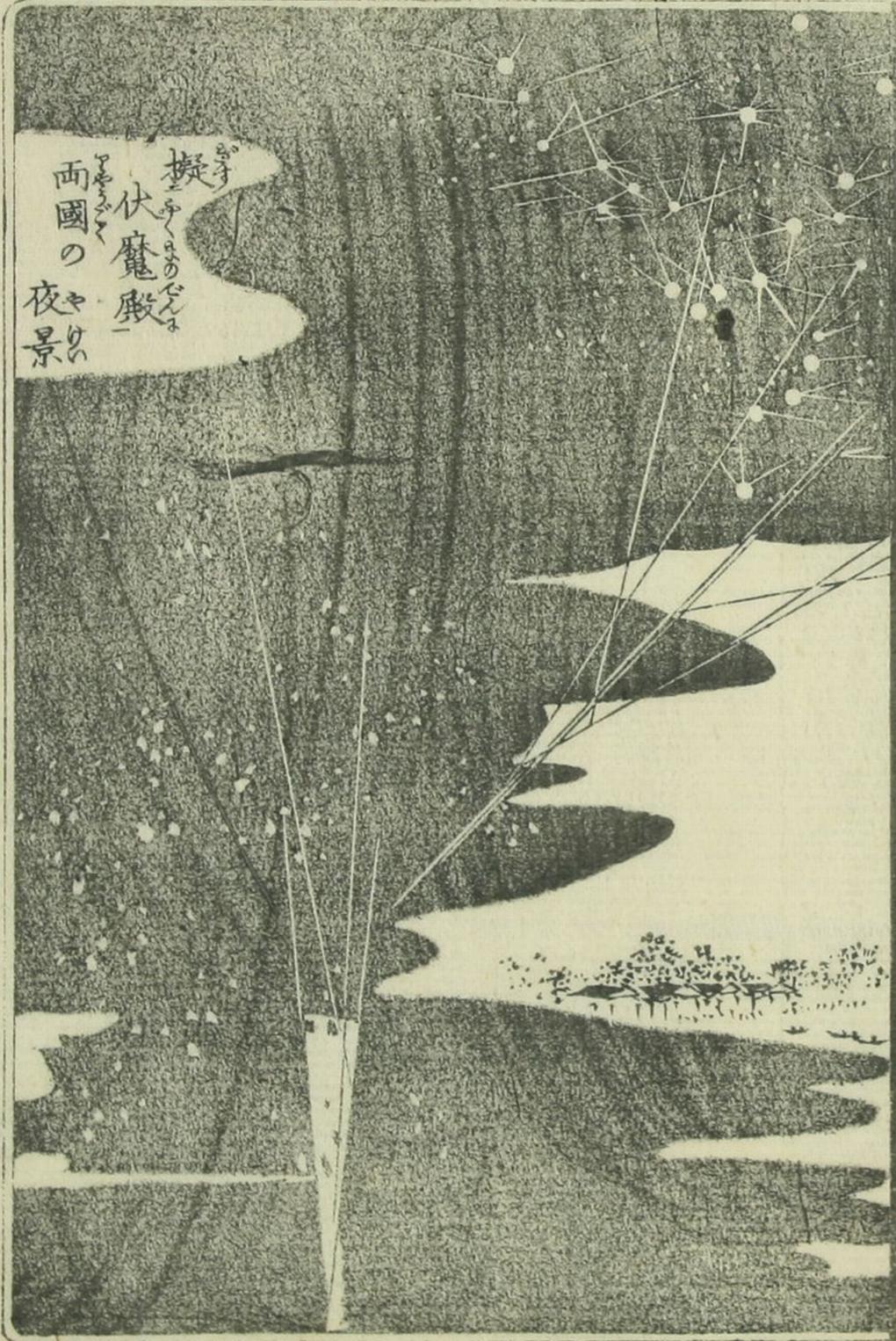




朝採梅
園中芳女



競きこふ
龍虎山りゅうこくざん
富岡乃とみおかの
不二ふた



擬
伏魔殿
西國の
夜景



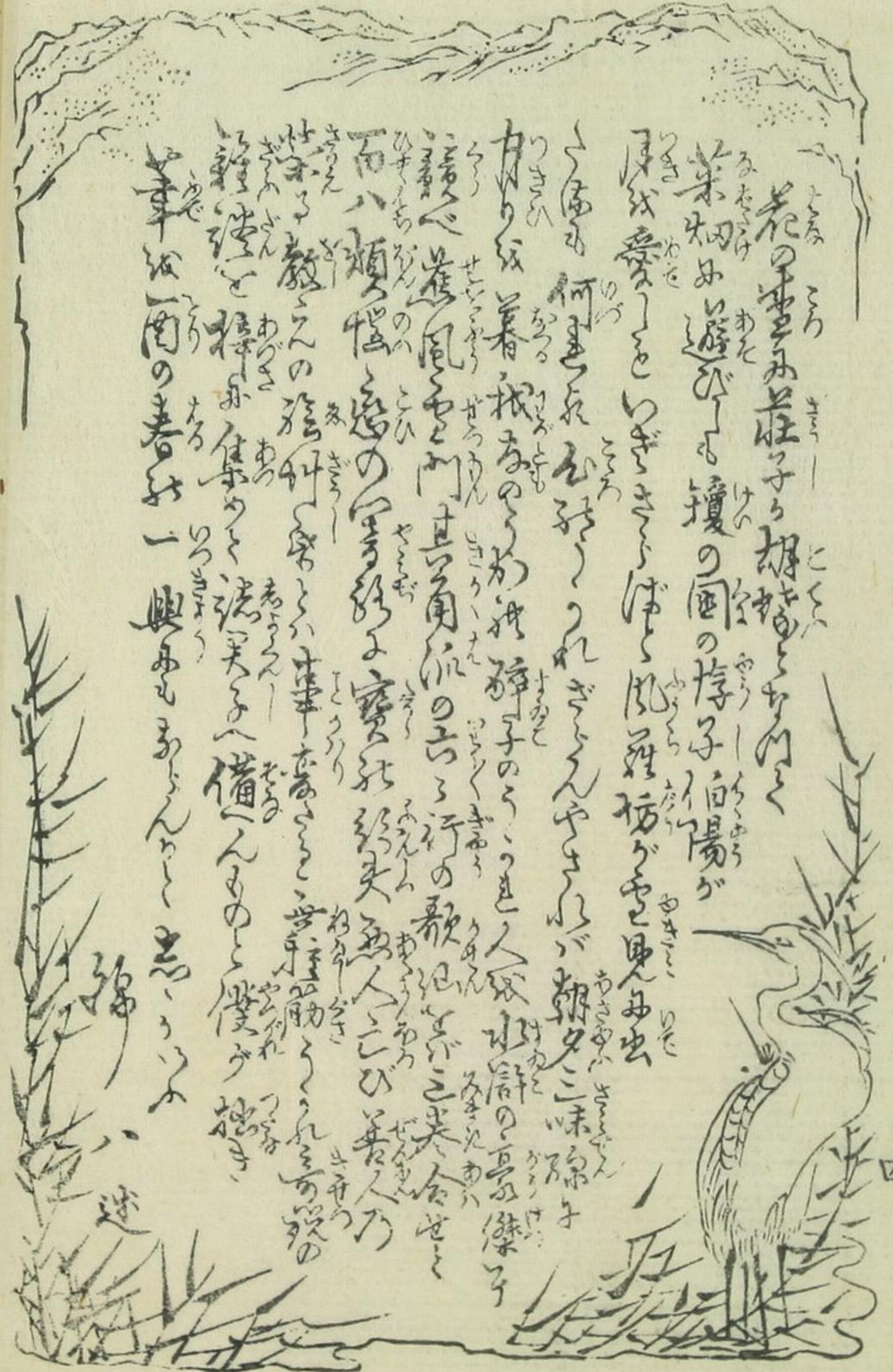
一
國
景



宇加連奇人集卷之上

東都

青林亭錦八著



花の重み 莊子 胡蝶 ちのち
茶畑 遊び 壇の 園の 存子 伯陽が
何れも 何れも 何れも 何れも
力なり 暮 秋 あり あり あり あり
鶴 風 あり あり あり あり
百八 煩悩 遠の 雲 あり あり
華 あり あり あり あり

江戸座歌仙

水もまき 笑ひ 妙なり 夕も風

深川

喜久亭壽樂

千屋家の法用 達めく 能名 紙 竹 雨 雨 雨
好めて 一日 通家の 連中 集り コッ
茶で 彫物 紙 書く 貫の 職人の 喜似を
向く こと コイッア ねの ちの 趣向を
の 尾小 鏡り 右のおもむき 成 出す
早速に 書 終り 時 刻 じょう 罫子 帆
門子 素の け さい び あり 駕 籠 紙 あり 河 津 原 の あり 森 田 屋 に

親父と呼ぶべきまきの愛も他人のこゝろを
まうし付さず早くも悟りし世のまあるに
いんまきこゝろ親父の情を返こんせざりしが
よみ全御成ともははれぬお十楽お仲名の連中
の病をいもまや直橋の煩をかりければ小
理成徳里出さるる最中地帯の程ゆせが直橋
もあまのて親父やあまのま

眉作まゆ作さくまき掩おほはる
凡夫ぼんぶ無む夜や登のぼるる百八ひやくはち煩わづら悩なやみみ神かみ後ごみみ子こ釋しやく迦かもも緘せきむむ乃の
さ成なり電でんもひぬましてや皇國の神かみく日ひ赤あかも十二じふに相あひ乃の

櫻川甚孝

お抱りおん成なり費ひ一ひとの字なは福ふくと預あづかるるも我われが曲まがるる
み神かみも直ただままるる清きよ浄じやうふふ神かみも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
福ふくまはるる江えノ男おとこの病やまもなへなも老おいも人ひと影かげがが見みええるる見みええるる
お抱りおん成なり費ひ一ひとの字なは福ふくと預あづかるるも我われが曲まがるる
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ

櫻川三孝
お抱りおん成なり費ひ一ひとの字なは福ふくと預あづかるるも我われが曲まがるる
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ
ましておんおん下くだりりあまあま小僧こぞうも喜よろこぶぶのべけべは美うつくしし川がは出いぬ

つらき春もあまかき大ねとともく宇宙不端祥一春の天にのり
種を割るをまを甘きまを空成純一と麟を降し冬は氷の中へ
潜ておぼろまを龍あり一應はあり蛟龍あり黄龍あり青
龍あり白龍あり黒龍あり角あり爪龍あり龍とつ角あまを
龍龍難あり蛟龍翼ありと應龍といひまごさあくの
名があまが一極あり説がふへそむぐりのあるものでござ
り外に龍もの名あまありまのの然率と申すは晒をとりひる
ふけまま下と少く借念ととり成さすといひまごさあくの
らげままお祈り怒毒が出さすといひまごさあくのいひまご

○
つらき春もあまかき大ねとともく宇宙不端祥一春の天にのり
種を割るをまを甘きまを空成純一と麟を降し冬は氷の中へ
潜ておぼろまを龍あり一應はあり蛟龍あり黄龍あり青
龍あり白龍あり黒龍あり角あり爪龍あり龍とつ角あまを
龍龍難あり蛟龍翼ありと應龍といひまごさあくの
名があまが一極あり説がふへそむぐりのあるものでござ
り外に龍もの名あまありまのの然率と申すは晒をとりひる
ふけまま下と少く借念ととり成さすといひまごさあくの
らげままお祈り怒毒が出さすといひまごさあくのいひまご
み浦をまの才めとく舜の降るに畢子の五才めとく島を賦く

浅草 櫻川新孝

伯益五才不しく火成はくつささる 頂囊五才ゆて孔子の
降るに故の聖賢生まはあがらめて明智後亦才と申す
とてども新孝の博考を弟幼子まをけりし晒をとりひる
の圃がめく奇くぬくのまま形も成さすも遊びの豆は
の中へはかき入るまもかきと入り一才はまごさあくの
でもまごさあかひひかき入る一才はまごさあくの
まごさあくの櫻川の名物舞同様でまごさあかひひまごさあ

○ 住吉町 捕 万

中村座子出勤すまごさあくの二十余年才方名めとく土地ふく
れの徳とて目と才のひくまごさあくの七才の形も成さす
まごさあくとおぼろまを龍あり一應はあり蛟龍あり黄龍あり青
龍あり白龍あり黒龍あり角あり爪龍あり龍とつ角あまを
龍龍難あり蛟龍翼ありと應龍といひまごさあくの
名があまが一極あり説がふへそむぐりのあるものでござ
り外に龍もの名あまありまのの然率と申すは晒をとりひる
ふけまま下と少く借念ととり成さすといひまごさあくの
らげままお祈り怒毒が出さすといひまごさあくのいひまご

武時中町たけときちゆうまちの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
のの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
初はつ立たち給たまへへ七しち刀たうのの柄へ手て紙しのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
丁てい後ごもものの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
のの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
そそのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
主しゆ持ぢのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
ああのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
露ろ方ほうをを持ぢててのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
ててのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け

越こ保ぼ 有ありりすすとと一いつつにに一いつつにに 一いつつにに 一いつつにに 京きやう 鉄てつ

色いろもも香かうとと佳よし芳ほう町まちのの名なのの街まちのの懸かひひのの比ひのの比ひのの湯ゆのの湯ゆ
素す衣いとと見みせせるる朝あさ後ご抱だくへへ一いつつにに一いつつにに一いつつにに一いつつにに
とと一いつつにに一いつつにに一いつつにに一いつつにに一いつつにに一いつつにに一いつつにに
玉たまのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
どどのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
そそのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
ままのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
ああのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
ああのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け

くくああのの中ちゆう町まちのの津つ越こへへ津つ谷や小こ津つのの道みち向むかひひのの武ぶ家け
去き年ねん難なんははふふよよりりととままりり 磯いそ洲しゅう系けい形けい山さんとと糸いと指さしししてて九く列りゅう并へい

久保町

や嘉橋

川井岩藏

斗つては長きおのれ乃とて
 いらぬおのれをいふはあまのこ
 新も娘も子もあまのこ
 逆折のえんおのれ
 去年までとてかゝる年の男が
 さあかゝるゝと男はあまのこ
 二月のえんおのれ
 原のまんおのれ
 借病とておのれ
 思切ておのれ
 公けつておのれ

明石やの常

大いにお茶を知らるゝと
 此人の妻を然る大家の
 たりけり常を折く
 か日男の妻とて
 公不
 原の事
 手解くおのれ
 一折小馬
 一馬
 晒すおのれ

内^{うち}心^{こころ}も^も後^{のち}移^{うつ}へ^へふ^ふ一^{ひと}内^{うち}ゆ^ゆや^や移^{うつ}性^{せい}が^がね^ねく^くく^くお^お直^{ただ}く^く一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^や
移^{うつ}性^{せい}が^がな^なり^りや^やア^アの^の物^{もの}の^の通^{とよ}り^り移^{うつ}性^{せい}ね^ねく^くふ^ふ

浅草

清元栄次郎

かけ^{かけ}深^かき^き進^{しん}む^むの^の毎^{まい}日^{にち}な^なが^がく^く
深^かの^の洞^{どう}情^{じやう}入^いら^らの^の山^{やま}舎^{しゃ}者^{しや}の^の下^かに^に移^{うつ}て^て移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く又^{また}
移^{うつ}性^{せい}の^の入^いら^らの^の一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^や今^{いま}何^{なに}の^の事^{こと}も^もな^なら^らず^ず早^{はや}く^くの^の内^{うち}心^{こころ}の^の洞^{どう}情^{じやう}の^の
面^{めん}白^{しろ}の^の一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^やお^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く
移^{うつ}性^{せい}の^の入^いら^らの^の一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^やお^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く
一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^やお^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く
く^くの^の直^{ただ}く^く一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^やお^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く
お^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く
軍^{いくさ}の^の人^{ひと}の^の移^{うつ}性^{せい}の^の入^いら^らの^の一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^やお^お岩^{いわ}の^の怪^{かい}物^{ぶつ}の^の美^みま^ま婦^ふ人^{にん}が^が移^{うつ}性^{せい}を^をな^なす^すく^く

舟^{ふね}の^の心^{こころ}も^も後^{のち}移^{うつ}へ^へふ^ふ一^{ひと}内^{うち}ゆ^ゆや^や移^{うつ}性^{せい}が^がね^ねく^くく^くお^お直^{ただ}く^く一^{ひと}ち^ちや^やん^んや^や
移^{うつ}性^{せい}が^がな^なり^りや^やア^アの^の物^{もの}の^の通^{とよ}り^り移^{うつ}性^{せい}ね^ねく^くふ^ふ

水斎 俳諧 宇かま奇人集卷之上 終



